



M
O
N
T
H
L
Y
O
R
C
H
E
S
T
R
A

4
.
2
0
2
0

Y
O
M
I
K
Y
O



MONTHLY
ORCHESTRA
4



BX

文化シャッター

スピードが、心を躍らせる。

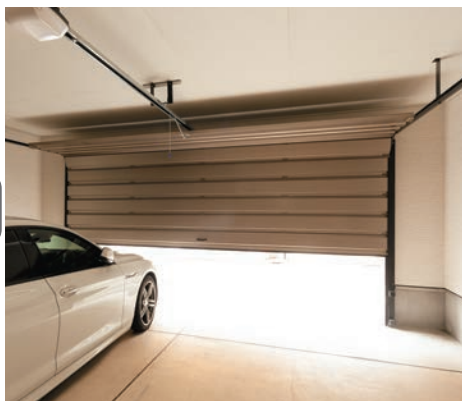


爽やかな気分で、一日がはじまってゆく。
「フラットピット」は、フラットパネルの美しさとともに、スピーディな開閉が特長。
高さ2.5mの開口部ならわずか約14秒で開き、快適なドライブをサポートします。

YouTube
公式チャンネルで
説明動画公開中!



住宅用オーバースライディングドア
フラットピット



文化シャッター株式会社 〒113-8535 東京都文京区西片1丁目17-3 ☎ 0570-666-670

いつでも、
待っている。
ほっとする
仲間がいる。



アフラック ペアレンツハウスは、小児がんなど難病の子どもと、
そのご家族をサポートする、ふれあいの家です。

日本で初めてがん保険をつくった保険会社として、
がんと向き合う親子のもうひとつの我が家をつくりたい。
そんな想いから東京と大阪に3か所、ペアレンツハウスが誕生しました。



1泊1,000円で宿泊できます。
(幼児は無料)



何でも相談できる
ソーシャルワーカーがいます。



お互いのことを話せる
仲間がいます。



無料の講演やイベントを
開催しています。

アフラックの保険に未加入でもご利用いただけます。

私たちにできる応援を。

アフラックペアレンツハウスは、アフラック、アソシエイツ、その他多くの方々からの寄付により、
公益財団法人 がんの子どもを守る会が運営しています。*販売代理店

「生きる」を創る。

Aflac

4月の演奏会

2

4/8 定期演奏会

4/25 土曜マチネシリーズ

4/26 日曜マチネシリーズ

4/28 名曲シリーズ

4/29 みなとみらいホリデー名曲シリーズ

4月のマエストロ&アーティスト

5

4月の楽曲紹介

10

MONTHLY ORCHESTRA 4

読売日本交響楽団 月刊オーケストラ 2020年4月号 目次

特集

ヴェンツァーゴ

新たなブルックナー指揮者の魅力

20

山崎浩太郎

小林研一郎先生の80歳をお祝いして

23

羽生善治

5月の公演

26

5月公演の聴きどころ

27

6月・7月の公演

28

読響ニュース

31

日テレコーナー

34

読響シンフォニックライブ放送予定

プロデューサー日記

読響賛助会員

36

読響メンバー

40

読響プロフィール

44

演奏をお楽しみいただくために



写真撮影・録画・録音はお断りいたします。



携帯電話の電源、時計のアラームはお切りください。補聴器はしっかり装着してください。キーホルダーの鈴やアメの包み紙の音などにもご注意ください。



咳やくしゃみはハンカチでお口元を押さえてくださるようお願いいたします。また、体を大きく動かすと他のお客様のご迷惑、鑑賞の妨げになりますのでご注意ください。

新型コロナウイルスの 感染拡大防止のために

- 発熱・咳・全身痛などの症状があるお客様は、ご来場前に医療機関にご相談ください。
- ホール内の各所にアルコール消毒液を設置しておりますのでご利用ください。咳やくしゃみの後は消毒液やせっけんでの手洗いと消毒をお願いいたします。

4/8 Wed.

第597回 定期演奏会
サントリーホール 19時開演
SUBSCRIPTION CONCERT No.597 / Suntory Hall 19:00

指揮
Conductor
ヴァイオリン
Violin
コンサートマスター
Concertmaster

バーバー
BARBER

〔休憩〕
[Intermission]

ブルックナー
BRUCKNER

マリオ・ヴェンツァーゴ *-p.5*

MARIO VENZAGO

シモーネ・ラムスマ *-p.7*

SIMONE LAMSMA

小森谷巧
TAKUMI KOMORIYA

ヴァイオリン協奏曲 作品14 [約25分] *-p.10*

Violin Concerto, op. 14

I. Allegro

II. Andante

III. Presto in moto perpetuo

交響曲 第3番 二短調〈ワーグナー〉

(第3稿/ノヴァーク版) [約57分] *-p.12*

Symphony No. 3 in D minor, "Wagner" (3rd version / Nowak edition)

I. Mehr langsam, Misterioso

II. Adagio, bewegt, quasi Andante

III. Ziemlich schnell

IV. Allegro

4/25 Sat.

第226回 土曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール 14時開演
SATURDAY MATINÉE SERIES No.226 / Tokyo Metropolitan Theatre 14:00

4/26 Sun.

第226回 日曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール 14時開演
SUNDAY MATINÉE SERIES No.226 / Tokyo Metropolitan Theatre 14:00

指揮
Special Guest Conductor

ヴァイオリン
Violin

コンサートマスター
Concertmaster

サン＝サーンス
SAINT-SAËNS

小林研一郎 (特別客演指揮者) *-p.6*

KEN-ICHIRO KOBAYASHI

福田廉之介 *-p.7*

RENNOSUKE FUKUDA

長原幸太
KOTA NAGAHARA

ヴァイオリン協奏曲 第3番 口短調 作品61
[約29分] *-p.14*

Violin Concerto No. 3 in B minor, op. 61

I. Allegro non troppo

II. Andantino quasi allegretto

III. Molto moderato e maestoso — Allegro non troppo

〔休憩〕
[Intermission]

ベートーヴェン
BEETHOVEN

交響曲 第3番 変ホ長調 作品55〈英雄〉 [約47分] *-p.15*

Symphony No.3 in E flat major, op. 55 "Eroica"

I. Allegro con brio

II. Marcia funebre : Adagio assai

III. Scherzo : Allegro vivace

IV. Finale : Allegro molto

4/28 Tue.

第631回 名曲シリーズ
サントリーホール 19時開演
POPULAR SERIES No.631 / Suntory Hall 19:00

4/29 Wed.
holiday

第119回 みなとみらいホリデー名曲シリーズ
横浜みなとみらいホール 14時開演
YOKOHAMA MINATO MIRAI HOLIDAY POPULAR SERIES No.119 / Yokohama Minato Mirai Hall 14:00

指揮
Special Guest Conductor

ヴァイオリン
Violin

チェロ
Cello

ピアノ
Piano

コンサートマスター
Concertmaster

ベートーヴェン
BEETHOVEN

ベートーヴェン
BEETHOVEN

[休憩]
[Intermission]

ベートーヴェン
BEETHOVEN

小林研一郎 (特別客演指揮者) -p.6
KEN-ICHIRO KOBAYASHI

成田達輝 -p.8
TATSUKI NARITA

遠藤真理 (読響ソロ・チェロ) -p.8
MARI ENDO (YNSO Solo Cello)

小林亜矢乃 -p.9
AYANO KOBAYASHI

小森谷巧
TAKUMI KOMORIYA

〈エグモント〉序曲 作品84 [約9分] -p.16
"Egmont" Overture, op. 84

三重協奏曲 八長調 作品56 [約36分] -p.17
Triple Concerto for Violin, Cello, and Piano in C major, op. 56
I. Allegro
II. Largo - III. Rondo alla polacca

交響曲 第7番 イ長調 作品92 [約36分] -p.18
Symphony No.7 in A major, op. 92
I. Poco sostenuto - Vivace
II. Allegretto
III. Presto
IV. Allegro con brio

指揮

マリオ・ヴェンツァーゴ

MARIO VENZAGO, Conductor

32年ぶりの来日 衝撃のブルックナー



©Alberto Venzago

ブルックナー演奏で高い評価を得ているスイスの名匠が読響初登場。1988年にN響へ客演して以来、32年ぶりの来日を果たし、日本で初めてブルックナーの交響曲を披露する。

チューリヒ生まれ。ウィーン国立音楽大学でハンス・スワロフスキーらに師事。ヴィンタートゥール・ムジークコレギウム、ハイデルベルク市立劇場、プレーメン・ドイツ室内フィル、グラーツ歌劇場、バーゼル響、バスク国立管、インディアナポリス響、イェーテボリ響の首席指揮者や音楽監督などを歴任。2010年から14年まで、ロイヤル・ノーザン・シンフォニアの首席指揮者を務め、現在はベルン響の首席指揮者兼芸術監督の任にある。ベルリン・フィル、ベルリン放送響、ボストン響、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、フランス国立放送フィル、ロンドン・フィルなど世界各地の楽団に客演。オペラでは、ルツェルン音楽祭、ベルリン・コーミッシェ・オーパーなどで活躍している。

ベルク、ノーノ、グバイドゥーリナら近現代音楽を得意とし、数々の録音をリリース。また、CPOレーベルからリリースされた、五つの楽団を振り分けたブルックナーの交響曲全集は、国際的に高い評価を受け、「史上最も刺激的で、そして示唆に富んだ、斬新なブルックナー」と評されるなど、日本でも話題を呼んだ。

4/8
定期

Maestro

4/25
土曜マチネー

4/26
日曜マチネー

4/28
名曲

4/29
みなとみらい

Maestro

指揮

小林研一郎
(特別客演指揮者)

KEN-ICHIRO KOBAYASHI, Special Guest Conductor

傘寿を迎えるマエストロ 渾身のベートーヴェン



©読響

今年4月9日に80歳を迎え、ますます円熟味を深める“炎のマエストロ”。ベートーヴェンの生誕250周年を祝い、二つのプログラムで熟達のタクトを披露する。

1940年福島県いわき市出身。東京芸術大学作曲科および指揮科を卒業。74年、第1回ブダペスト国際指揮者コンクール第1位、特別賞を受賞。これまでハンガリー国立響の音楽総監督をはじめ、チェコ・フィル常任客演指揮者、日本フィル音楽監督など国内外の数々のオーケストラのポジションを歴任している。2002年5月の「プラハの春音楽祭」オープニング・コンサートの指揮者に東洋人として初めて起用され、〈我が祖国〉全曲をチェコ・フィルと演奏して絶賛された。ハンガリー政府よりリスト記念勲章、ハンガリー文化勲章、民間人最高位の“星付中十字勲章”、ハンガリー文化大使の称号を授与された。11年、文化庁長官表彰。13年、旭日中綬章を受章。チェコ、オランダでも文化を通じた国際交流や社会貢献に寄与し、長年にわたり重責を担ってきた。

現在、日本フィル桂冠名誉指揮者、ハンガリー国立フィルおよび名古屋フィルの桂冠指揮者、群馬響ミュージック・アドバイザー、九州響名誉客演指揮者、東京芸術大学およびリスト音楽院（ハンガリー）名誉教授の任にあるほか、東京文化会館音楽監督、長野県芸術監督団の音楽監督、ローム ミュージック ファンデーションの評議員を務めている。

録音では、14年4月から読響と取り組んだブラームスの交響曲全集が好評を博す。



©Otto van den Toorn

ヴァイオリン

シモーネ・ラムスマ

SIMONE LAMSMA, Violin

ニューヨーク・フィルの音楽監督ズヴェーデンから「世界をリードするヴァイオリニスト」と絶賛されているオランダの名花。メニューイン音楽院と英国王立音楽院で学び、インディアナポリス国際コンクールなど多くのコンクールで入賞。これまでに、マリナー、ヤノフスキ、ピエロフラーヴェク、ガーディナー、ネゼ=セガン、ナガノ、V. ユロフスキらの指揮で、ロイヤル・コンサートヘボウ管、シカゴ響、ニューヨーク・フィル、クリーヴランド管、フランクフルト放送響、ロンドン・フィル、フランス国立管などと共演。ウィグモア・ホール、カーネギーホールなど、世界の著名ホールでリサイタルを開催。チャレンジ・クラシックスからリリースされたCDも高い評価を得ている。使用楽器は、1718年製のストラディヴァリウス「ムイナルスキ」。

柔軟な発想力とひらめきを持つ新鋭。1999年岡山県生まれ。2013年クロスター・シェンタール国際コンクール・ジュニア部門優勝。併せてヴィルトゥオーゾ賞なども受賞。14年メニューイン国際コンクール・ジュニア部門優勝。シオンの音楽学校をわずか1年で首席卒業し、16年からローザンヌ高等音楽院で学んでいる。17年、ハイフェッツ国際コンクール第3位、ヴァルセシア・ムジカ国際コンクール優勝。18年、ハノーファー国際コンクール第4位。これまでD. ユロフスキ、G. ゲレーロ、山田和樹らの指揮で、クリーヴランド管、ロンドン・フィル、モスクワ・フィル、ハノーファー北ドイツ放送フィル、大阪フィルなどと共演。17年、ギトリス賞を受賞。今年1月、日本コロムビアから初のソロCDをリリース。今回が読響初登場。



ヴァイオリン

福田廉之介

RENNOSUKE FUKUDA, Violin

4/8
定期

Artist

4/25
土曜マチネー

4/26
日曜マチネー

Artist

4/28
名曲

4/29
みなとみらい

Artist



©Marco Borggreve

ヴァイオリン

成田達輝

TATSUKI NARITA, Violin

卓越した技巧を持ち、熱いパッションを漲らせる若き実力派。1992年生まれ。パリ国立高等音楽院で学ぶ。2010年のロン＝ティボー国際コンクール、12年のエリザベート王妃国際コンクールとともに第2位に輝き、注目を集めた。これまでにクリヴィヌ、アルトリヒテル、インキネン、小林研一郎、尾高忠明、下野竜也、山田和樹らの指揮で、ブリュッセル・フィル、ルクセンブルク・フィル、プラハ響、N響、東響、東フィルと共演している。ホテルオークラ音楽賞、出光音楽賞など受賞多数。一柳慧、酒井健治らの作品を初演するなど、現代作品にも意欲的に取り組んでいる。使用楽器は、宗次コレクションから貸与された1711年製のストラディヴァリウス「タルティーニ」。読響とは12年以来、二度目の共演。

4/28
名曲

4/29
みなとみらい

Artist

豊かな歌心と温かな音色で魅了する日本が誇る名手。2017年4月から読響ソロ・チェロ奏者を務めている。東京芸術大学を卒業後、ザルツブルク・モーツァルテウム音楽大学修士課程を修了。日本音楽コンクール第1位、「プラハの春」国際コンクール第3位など受賞多数。齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞。これまでにG. ボッセ、J=P. ヴァレーズ、モルロー、小林研一郎、山田和樹らの指揮でウィーン室内管、プラハ響、都響などと共演。ドイツ・キームガウ春の音楽祭、神戸国際芸術祭などで室内楽奏者としても国際的に活躍している。録音はソロ・アルバムのほか、小林研一郎指揮、読響との「ドヴォルザーク：チェロ協奏曲」などをエイベックス・クラシックスからリリース。20年3月までNHK-FM「きらクラ!」のパーソナリティを務めた。



©Yuji Hori

チェロ

遠藤真理 (読響ソロ・チェロ)

MARI ENDO (YNSO Solo Cello),
Cello



©Hiromi Uchida

ピアノ

小林亜矢乃

AYANO KOBAYASHI, Piano

優美な音色で魅了するピアノの名花。桐朋学園「子供のための音楽教室」を経て、東京音楽大学ピアノ演奏家コースに特待生で入学、首席で卒業。ケルン音楽院を首席で卒業。日本音楽コンクール入選、カラブリア国際コンクール第2位、エンニオ・ポリーノ国際コンクール第3位など受賞多数。これまでにネーデルラント・フィル、チェコ・フィル、ハンガリー国立フィル、東響、日本フィル、名古屋フィル、大阪フィルなど国内外の楽団と共演している。2019年5月にはブダペストにて日本・ハンガリー国交樹立150周年記念コンサートでブダペスト響と共演し、好評を博した。ドイツでのリサイタルや、スペインのセビリア・スプリングフェスティバルに招かれるなど国際的にも活躍。

4/28
名曲

4/29
みなとみらい

Artist

バーバー

ヴァイオリン協奏曲 作品14

20世紀アメリカの作曲家サミュエル・バーバー（1910～81）は、幼い頃から音楽的才能を発揮し、14歳でフィラデルフィアのカーティス音楽院に入学した。卒業作品として書いた序曲《悪口学校》（1931）が、1933年にフィラデルフィア管弦楽団によって初演されて世に認められると、1935年に奨学金を得てローマに留学する。モダニズムや前衛音楽と距離を取りつつ、民謡や伝統的な素材に頼らない親しみやすい旋律と和声で書かれ、叙情的な味わいや美しさ、洗練されたオーケストレーションを特徴とする数々の作品を残した。バーバーの名声を最初に高めたのは、ローマ時代に作曲された交響曲第1番（1936）で、トスカニーニやワルターがこぞって取り上げた。同じくローマで書かれた弦楽四重奏曲口短調（1936）は、翌年に第2楽章「モルト・アダージョ」が弦楽合奏用に編曲されて〈弦楽のためのアダージョ〉として発表された。彼の作品のなかで最も有名なこの曲は、後にジョン・F・ケネディ大統領の葬儀で追悼曲として用いられ、また、映画『プラトーン』（1986年公開）でも使用された。

ヴァイオリン協奏曲は、フィラデルフィア在住の実業家で、慈善活動にも力を入れていたサミュエル・フェルズの^{いばく}委嘱で、若手ヴァイオリン奏者ブリゼッリのために作曲された。フェルズの勧めでスイスに渡ったバーバーは、1939年夏に第1、2楽章を書き上げた。10月の締切りに間に合わせるため終楽章に取りかかろうとしたところ、第二次世界大戦勃発直前でヨーロッパ滞在が厳しくなり、パリから船で9月初旬にアメリカに帰国した。まずは二つの楽章をブリゼッリに見せると好意的な反応を見せたが、終楽章を送ってから話が^{こじ}拗れた。それぞれの主張は異なる。

ブリゼッリは、目まぐるしく動き続ける技巧的な音楽は、フィナーレにふさわしくないで、この部分を中間部としてもっと壮大な音楽に書き直すように提案したが、バーバーに拒否された。バーバーによれば、ブリゼッリに演奏不可能と受け取りを拒否されたが、友人のカーティス音楽院のヴァイオリニストは演奏可能としているので書き直しはしないと伝えた。2010年に発表された研究論文によると、当時の手紙等から二人の主張に、ブリゼッリのヴァイオリン教師の思惑も加わり、余計に拗れたようだ。結局、バーバーは作曲料の半分を返還し、友人のヴァイオリニス

トの協力のもと試演会を行い、演奏可能であることを証明した。翌年1月に予定されていたブリゼッリによる初演は流れてしまったが、1941年2月7日にアメリカの名ヴァイオリン奏者アルバート・スポールディングの独奏、ユージン・オーマンディ指揮のフィラデルフィア管弦楽団によって初演され、成功を収めた。数日後にはニューヨークのカーネギーホールで再演されるなど、反響は予想外に大きかった。なお、バーバーは、1948年に速度標語をはじめ改訂を行い、それが決定稿となった。オーケストラは2管編成、打楽器の種類は少ないがピアノが入る。

第1楽章 アレグロ、ト長調、4/4拍子 序奏は持たず、独奏ヴァイオリンがノスタルジックで甘美な第1主題を奏でる。続いてクラリネットのリズミカルな動きで始まる第2主題が示される。二つの主題が展開され、堂々とした再現部の最後に小規模なカデンツァが置かれ、コーダで二つの主題が静かに回想される。

第2楽章 アンダンテ、ホ長調、6/4拍子 オーボエの穏やかな旋律で静かに開始され、チェロ、クラリネット、ヴァイオリン、ホルンに受け継がれる。独奏ヴァイオリンが現れてラプソディックな旋律を歌い上げて短調に転じ、中間部はトランペットの同音反復を背景に進み、やがて自由に揺れ動く。独奏ヴァイオリンにより冒頭の旋律が再現され、ロマンティックに壮大に広がる。

第3楽章 プレスト・イン・モート・ペルペトゥオ [無窮動のプレスト]、イ短調、4/4拍子 ティンパニに導かれて独奏ヴァイオリンが3連符のパスセージで絶え間なく動き、駆け抜ける。ヴァイオリンの鮮やかな技巧が存分に発揮される。

〈柴辻純子 音楽評論家〉

作曲：1939～40年／初演：1941年2月7日、フィラデルフィア／演奏時間：約25分
楽器編成／フルート2（ピッコロ持替）、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、打楽器（小太鼓）、ピアノ、弦五部、独奏ヴァイオリン

ブルックナー

交響曲 第3番 二短調 〈ワーグナー〉(第3稿/ノヴァーク版)

アントン・ブルックナー(1824~96)は、1873年の9月に第2番と作曲中の第3番の二つの交響曲を携えて、バイロイトのワーグナーのもとを訪ねた。当時、祝祭劇場の建設で多忙だったワーグナーは、楽譜に目を通すことに乗り気でなかったが、第3番冒頭のトランペット独奏の旋律に興味をもち、ブルックナーが作品の献呈を申し出ると快諾の返事をくれた。同年の12月31日に全曲完成後、専門の筆写譜家によって清書された総譜は、1874年5月9日付でワーグナーに献呈された。

いわばワーグナーお墨付きといえる作品であるが、1874年と翌年にパート譜を準備してウィーン・フィルハーモニー管弦楽団に提出したところ、2回とも演奏を拒否された。そのためこの第1稿は、作曲家の生前に初演されることも、楽譜が出版されることもなかった。ブルックナーは、大半の交響曲で改訂を重ねているが、第3番も例外ではなく、1877年に全体的大幅な短縮を行い、楽想やオーケストレーションを変更するなどして第2稿を完成させた。どうにか同年末にウィーンの楽友協会の演奏会で初演されることになったが、作曲家の良き理解者だった指揮者ヘルベックが急逝したため、ブルックナー自身が指揮した。だが、練習不足だったため、音楽評論家ハンスリックを中心とした反対派の野次にさらされた(聴衆のなかに若き日のマーラーもいた)。その惨憺たる結果にブルックナーは相当落ち込んだが、幸いなことに出版社から打診があり、翌年に総譜とパート譜が出版された。その後、ウィーンの楽壇におけるブルックナーの地位は少しずつ高まっていき、1881年の交響曲第7番の輝かしい成功などによって名声は確立され、第3番の再演が待たれた。そして周囲の勧めで再改訂を行い(マーラーは反対したようだ)、1889年に第3稿が完成した。ここでは第2稿で追加したスケルツォ楽章(第3楽章)のコードが削除され、終楽章の再現部が大幅に縮小された。

本日は、その第3稿による演奏である。楽曲全体はすっきり整理され、凝縮された密度の濃い作品となっている。第1稿にはワーグナーの作品(〈トリスタンとイゾルデ〉〈ワルキューレ〉〈タンホイザー〉など)からの引用も含まれたが、多くは改訂を重ねるなかで削除された。また、この交響曲から本格的に現れるブルックナー・リズム(2+3、3+2)が、改訂のたびに強調されていった。

第1楽章 より遅く、神秘的に、二短調、2/2拍子 弦楽器の弱音の響きから、トランペット独奏が浮かび上がる。堂々とした第1主題は、ブルックナー休止(総休止)をはさみながら高まり、ヘ長調の穏やかな第2主題は、ブルックナー・リズムによる。管楽器のコラール風の第3主題は、途中でトランペットが新しい動機を加える。再現部ではブルックナー・リズムが強調され、コードはティンパニが轟く。

第2楽章 アダージョ、動きをもって、クワジ・アンダンテ、変ホ長調、4/4拍子 改訂のたびに速度標語が微妙に変化し、楽章規模も縮小された。穏やかな第1主題がヴァイオリンで歌われ、ヴィオラが憧れに満ちた第2主題を奏でる。静かで神秘的な楽想を経て、第2主題がヴァイオリンに現れる。第1主題が木管楽器で再現され、力強いファンファーレが輝き、祈りのような音楽で終結する。

第3楽章 かなり速く、二短調、3/4拍子 弦楽器の旋回する音型とピッツィカートを組み合わせた開始から、全楽器による力強い主題が現れる。歌謡的な中間部をはさみ繰り返される。トリオ(イ長調)は明るく、素朴な旋律が歌われる。

第4楽章 アレグロ、二短調、2/2拍子 力強く突き進む第1主題、緩やかなテンポで表情豊かな第2主題、管楽器が高らかに響く第3主題が提示される。再現部は、第3稿で第1主題と第3主題が削除されたため、縮小された第2主題から始まる。最後は、第1楽章の冒頭主題が金管楽器で輝かしく再現されて力強く結ばれる。

〈柴辻純子 音楽評論家〉

作曲：1872~73年(第1稿)、1877年(第2稿)、1888~89年(第3稿)／初演：1877年12月16日、ウィーン(第2稿)、1890年12月21日、ウィーン(第3稿)／演奏時間：約57分
楽器編成／フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、ティンパニ、弦五部

4/25

土曜マチネー

4/26

日曜マチネー

Program Notes

サン＝サーンス

ヴァイオリン協奏曲 第3番 口短調 作品61

1870年代から80年代にかけて、カミーユ・サン＝サーンス（1835～1921）は創作期の盛りを迎えていた。当時、作曲家は必ずしも恵まれた私生活を送っていたわけではない。1875年に40歳で結婚。21歳年下の妻と生活を始めるが、歯車が噛み合わない。夫妻は二人の息子をもうけたが、事故と病気で相次いで子供たちを失う。夫は妻に当たり散らす。妻は堪えきれず、81年に失踪した。

こうした状況にあって創作の筆がはかどるのは、作曲家がその私生活を音楽の現場に持ち込まないタイプだったからか、はたまた、逆境をバネに仕事に打ち込むタイプだったからか。いずれにせよこの時期、サン＝サーンスはピアノ協奏曲第4番、歌劇〈サムソンとデリラ〉、ヴァイオリン・ソナタ第1番、交響曲第3番〈オルガン付き〉といった傑作を量産していた。ヴァイオリン協奏曲第3番も、その列に連なる名曲のひとつだ。完成は1880年。翌年1月、被献呈者のヴァイオリニスト、サラサーテを独奏者に迎え、パリで初演された。

第1楽章冒頭、布をジグザグと縫い進めるような音型と、長短短リズムのモチーフとのユニットが、独奏ヴァイオリンによって示される。以後、それらはそれぞれ引き伸ばされたり縮められたり、ときには融合させられたりしながら、独奏と管弦楽との間を行ったり来たりする。

第2楽章はバルカロール（舟歌）風。波のさざめくような伴奏形が特徴的だ。独奏と管弦楽とが音型をやりとりしながら音楽を前に進めていくが、その様子は水辺に打ち寄せては返す小波のよう。第1楽章とは対照的に楽想は穏やか。

終楽章はヴァイオリンの技巧的な独奏で始まる。続く主部は速い3拍子系の舞曲ジグ。静かな部分を挟んで序奏を回想したのち、ジグを再現する。やがて金管楽器群による讃美歌風の楽句を呼び水に、華々しく終結へと向かう。

〈澤谷夏樹 音楽評論家〉

作曲：1880年／初演：1881年1月2日、私的演奏会にて、パリ／演奏時間：約29分
楽器編成／フルート2（ピッコロ持替）、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦五部、独奏ヴァイオリン

ベートーヴェン

交響曲 第3番 変ホ長調 作品55〈英雄〉

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770～1827）は当初、交響曲第3番に革命戦争の英雄ナポレオン・ボナパルトへの献辞を添えていた。共和主義者だった作曲家は、ナポレオンが皇帝に即位した（1804年5月18日）ことを知り、総譜の扉に書いたその献辞をかき消す（同8月）。ただ、ベートーヴェンが8月26日付で出版社に送った手紙には、「交響曲には本当はボナパルトという題がつけられている」との記述が残る。特定の人物を想定しているが、音楽自体がナポレオンの具体的な容姿や生き方を描写しているわけではない。

何度かの非公開演奏ののち、1805年に公開初演を迎えた。その様子を当時の批評が伝えている。「（第3交響曲には）どぎつさや奇抜さが余りにもしばしば見られ、そのことによって見通しが極めて難しくなり、統一がほとんど失われている」（『一般音楽新聞』1805年2月13日号）

散々な書かれようだが、そこからは逆に、ベートーヴェンがこの作品で従来の交響曲の概念をひっくり返してしまったことが分かる。演奏会では「大変な喝采を受けた」という記録も残されており、耳新しさを喜んだ聴衆もいた。

第1楽章、延々と続くヘミオラ（たとえば8分音符6つを4分音符3つとみなす拍節変化）には演奏者ですら参ったとの報告が残る。作曲家の弟子リースは、再現部直前、弦楽に主題が回帰する数小節前にホルンがフライングする場面を、ベートーヴェンの「意地悪」として回想している。**第2楽章**は短短短長のリズム（タタタター）が耳を引く葬送行進曲。中間部では伴奏を舞曲ジグ風の長短短リズムに衣替えさせて推進力を保つ。**第3楽章**のスケルツォでは名前の通り「冗談」めいた楽想が続く。速過ぎる3拍子が聴き手の拍節感をかき乱す。変奏曲仕立ての**第4楽章**も興味深い構成。低音のテーマだけを示したあと、さまざまな横顔の変奏を続ける。

〈澤谷夏樹 音楽評論家〉

作曲：1803～04年、オーバーデープリングおよびウィーン／初演：1805年4月7日、アン・デア・ウィーン劇場、ウィーン／演奏時間：約47分
楽器編成／フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン3、トランペット2、ティンパニ、弦五部

4/25

土曜マチネー

4/26

日曜マチネー

Program Notes

4/28
名曲4/29
みなとみらい

Program Notes

ベートーヴェン

〈エグモント〉序曲 作品 84

1809年5月、ウィーンはナポレオン率いるフランス軍によって占領される。10月にオーストリアとフランスの間で講和条約が結ばれると、ウィーンの街に少しずつ日常が戻ってきた。宮廷劇場支配人のヨーゼフ・ハルトルは戦争のため休演していた劇場を立て直すべく、1810年春にゲーテの『エグモント』とシラーの『ヴィルヘルム・テル』の上演を企画する。その際、劇付随音楽の作曲者として、『エグモント』にはルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770～1827）が選ばれた。シラーに傾倒していたベートーヴェンは当初『ヴィルヘルム・テル』のほうを望んでいたというが、『エグモント』の作品内容への共感もあってか、意欲的に作曲に取り組み、序曲、そしてヒロインであるクレール・ヒエンのための二つの歌曲など、全10曲を書きあげた。つまり、劇とは言っても、ヒロイン役にはセリフのほかに歌も用意されていたことになる。

5月24日、ブルク劇場での初演までに作曲は間に合わず、6月15日になってベートーヴェンの音楽がすべてそろった状態で上演された。

ゲーテの『エグモント』は、実在の人物であるエグモント伯ラモラルをモデルにした戯曲。スペイン支配下のオランダで、圧政を批判し、弾圧よりも市民の自由を訴えたエグモント伯爵は、反逆罪で捕えられて死刑を宣告される。恋人クレール・ヒエンによる救出の努力もむなしく、伯爵は「私は自由のために死ぬ」と宣言し、処刑場へと歩む。

曲は重々しく引きずるような強奏で始まり、エグモントの悲運を示唆する。続いて緊迫感あふれる闘争的な楽想がくりひろげられ、エグモントの強固な信念を思わせる。張りつめたヴァイオリンの高音が音楽の流れを断ち切り、輝かしいコーダが英雄の高邁な精神を称えてオランダの独立を予感させる。

〈飯尾洋一 音楽ライター〉

作曲：1809～10年／初演：1810年6月15日、ブルク劇場、ウィーン／演奏時間：約9分
楽器編成／フルート2（ピッコロ持替）、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ、弦五部

ベートーヴェン

三重協奏曲 八長調 作品 56

ベートーヴェンが作曲した協奏曲のなかでもひととき異彩を放っているのが、この三重協奏曲。ピアノ、ヴァイオリン、チェロの3人ものソリストを要する珍しい編成を持つ。作曲の経緯は明らかではない。18世紀後半までパリでは協奏交響曲（サンフォニー・コンセルタント）の名で複数の独奏楽器による協奏曲が人気を獲得していた。1802年、パリで活躍していた旧友のアントン・ライヒャがウィーンにやってきた際に、ベートーヴェンは彼との会話から複数楽器による協奏曲のアイデアを思いついたのかもしれない。もっとも、この三重協奏曲は3人のソリストが妙技を競い合うというよりは、ピアノ・トリオとオーケストラのための協奏曲とみなしたほうが納得がゆく。トリオのなかでもチェロがリーダー格を務めているのが特徴的だ。

ベートーヴェンの伝記作者シンドラーによれば、ピアノにはベートーヴェンのパトロンであり弟子でもあったルドルフ大公、ヴァイオリンにはカール・アウグスト・ザイドラー、チェロには当代一流の名手アントン・クラフトが想定されていたというが、この記述は信憑性に乏しい。作曲は交響曲第3番〈英雄〉と同時期。1804年に〈英雄〉とともにパトロンのロブコヴィッツ邸で試演されるも、出版の遅れなどもあり、1808年に公開初演された。

第1楽章 アレグロ 雄大で力強い提示部に続いて、チェロ、ヴァイオリン、ピアノの順で独奏楽器が登場し、風格のある楽想がくりひろげられる。

第2楽章 ラルゴ わずか53小節のみの間奏曲的な楽章。独奏チェロの伸びやかで叙情的な主題に弦楽合奏が静かに寄り添う。切れ目なく第3楽章へと続く。

第3楽章 ロンド・アラ・ポラッカ ポラッカとはポロネーズのこと。独奏チェロによるロンド主題で始まり、入念で高揚感あふれるクライマックスを築く。

〈飯尾洋一 音楽ライター〉

作曲：1804年／初演：1808年5月、アウガルテン、ウィーン／演奏時間：約36分
楽器編成／フルート、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦五部、独奏ヴァイオリン、独奏チェロ、独奏ピアノ

4/28
名曲4/29
みなとみらい

Program Notes

4/28
名曲4/29
みなとみらい

Program Notes

ベートーヴェン

交響曲 第7番 イ長調 作品92

〈エグモント〉上演の翌年となる1811年、ベートーヴェンは夏を温泉保養地で過ごした後、ウィーンに戻って本格的に交響曲第7番の作曲に取り組む。交響曲としては、第5番〈運命〉と第6番〈田園〉を1808年に完成してから3年のブランクを経ての新作となった。1812年の4月頃に曲を書きあげたものの、ここから初演に至る道のりは平坦ではなかった。1813年にルドルフ大公邸で試演されるも、公開初演の計画は戦争によるウィーン経済の混乱もあって頓挫してしまう。

そこにメトロノームの考案者として知られるメルツェルから、ウェリントンの勝利（イギリス軍がフランス軍に勝利を収めた）を祝う時事的な新作を書いてはどうかという提案が届く。ベートーヴェンはこれを受諾して〈ウェリントンの勝利〉を作曲した。時流に乗ったこの作品と合わせて、同年12月に交響曲第7番の初演がようやく実現する。商才に富んだメルツェルの狙い通り〈ウェリントンの勝利〉はウィーンの音楽界に旋風を巻き起こし、公演は異例の大成功を収めた。話題の主役となったのは〈ウェリントンの勝利〉だが、交響曲第7番も好評を博し、特に第2楽章はアンコールが求められた。

第1楽章 ポコ・ソステヌート〜ヴィヴァーチェ 堂々とした大規模な序奏で開始され、軽快な付点リズムの反復が躍動感あふれる主部を導く。

第2楽章 アレグレット 痛切な主題は粛々と歩む様子を連想させる。主題を変奏させながら次第に高揚し、悲劇的な頂点を築く。

第3楽章 プレスト 鋭く弾むような急速なスケルツォと田園風のひなびたトリオが交代する。

第4楽章 アレグロ・コン・プリオ ^{しつよう}叩きつけるようなリズムを執拗に反復しながら、陶酔的な興奮と熱狂を呼び起こす。

〈飯尾洋一 音楽ライター〉

作曲：1811～12年／初演：1813年12月8日、ウィーン大学講堂／演奏時間：約36分

楽器編成／フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦五部

Accuphase

enrich life through technology

感動の余韻・・・

あなたが聴いた名演奏を
アキュフェーズのラインナップでお楽しみください。

COMPACT
disc
DIGITAL AUDIO

CD専用プレーヤー **DP-430**
希望小売価格 330,000円（税別）



90W/ch(8Ω)
インテグレート・ステレオアンプ **E-270**
希望小売価格 300,000円（税別）

アキュフェーズ株式会社

※製品の貸し出し試聴をご希望の方は、アキュフェーズ製品取扱店にご相談ください。
※アキュフェーズ製品の保証期間は5年間です。但し、CDプレーヤーなどは3年間、MCカートリッジは1年間です。
●カタログ請求は 〒225-8508 横浜市青葉区新石川2-14-10 アキュフェーズ(株) 宣伝課D係
TEL.045-901-2771(代) FAX.045-901-8959 <http://www.accuphase.co.jp/>

IASI
International Audio Society of JAPAN

ヴェンツァーゴ 新たなブルックナー指揮者の魅力

山崎浩太郎



マリオ・ヴェンツァーゴ（1948～） ©Alberto Venzago

ヴェンツァーゴって、とっても面白い。

それを教えてくれたのは、ドイツのCPOレーベルから発売された、ブルックナーの交響曲全集だった。いま、ブルックナーの交響曲全集のディスクは、30種を軽くこえている。ダニエル・バレンボイムのようにオーケストラを替えて3回録音した猛者もいれば、あらゆる稿を録音する気だったらしいゲンナジー・ロジェストヴェンスキー（元読響名誉指揮者）のような指揮者もある。そのなかで、ヴェンツァーゴが新たなセットを世に問う意味は、奈辺にあったのか。

使用した楽譜は、特に変わったものではない。第1番以外は作曲家本人による最後の稿を採用している。現代では一般的な選択法だ。その独創は、室内管弦楽団二つを含む五つのオーケストラに、10曲（0番を含む）を分担させたことにある。以下に列記してみる。最初の二つが室内管弦楽団、残りが通常の交響楽団である。

タピオラ・シンフォニエッタ 第0番、第1番、第5番

ノーザン・シンフォニア 第2番

ベルン交響楽団 第3番、第6番、第9番

バーゼル交響楽団 第4番、第7番

ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団 第8番

「何かが起こりそう」

録音は2010年から2014年にかけて行われ、番号順ではなく、ほぼ録音順に発売された。第1弾は2011年夏に出た、バーゼル交響楽団との第4番と第7番の2枚組である。

私はこれをすぐに入手したのだが、実を言うと、その時点ではヴェンツァーゴという指揮者に対して、特別な印象はほとんどもっていなかった。ソル・ガベッタを独奏者としてデンマーク交響楽団と録音したエルガーのチェロ協奏曲（国内盤も出た）とか、エーテポリ交響楽団を指揮したベルクの管弦楽曲集とかは聴いていたのだが、正直言って、これらのCDはあまり記憶に残らなかったのである。

しかし、ディスクというのは不思議なもので、ジャケットや曲目をみたときに、「何かが起こりそう」という予感を与えてくれるものが、ときどきある。これまでとは違う、何かが聴けそう。そういうものに会うために、飽きもせずにディスクを買い続けてきた。残念ながら、その勘は外れることも、ものすごくたくさんあって、そのたびに後悔させられる。だが、このブルックナーは当たった。大当たりだった。特別に変わったことをしているわけではないが、見通しのいい響きと進行、旋律の歌いぶりが、聴いていてとても気持ちがよかった。

新たな録音で示そうとしたもの

そして、「おお、これは」と思われたのは、CDのブックレットにある、ヴェンツァーゴ自身の言葉だった。

「この新たな録音で示したいのは、ブルックナーは同じ交響曲を9回（あるいは10回）書いたわけではない、ということだ。それどころか、どの曲でも、彼の交響曲は独自のメッセージをもっている。この作曲家はつねに新たな音楽的意義を創造し、響きの画像をいつも変化させていたのだ。

そこで私は、規模も文化も伝統も異なるオーケストラたちを分けて、それぞれの交響曲に起用するつもりだ。そこで明らかになるのは、どれも同じなのではなく、どんなに素晴らしく違っているか、ということなのだ！」

小林研一郎先生の80歳をお祝いして

羽生善治



小林先生とともに
(写真提供：筆者)

読響特別客演指揮者の小林研一郎氏は今月80歳の誕生日を迎えます。お祝いの言葉を、マエストロと長年ご交流のある棋士・羽生善治さんからいただきました。
(編集部)

小林研一郎先生、80歳の誕生日、誠におめでとうございます。長年にわたる第一線での御活躍に心からの敬意とお祝いを申し上げます。

将棋界においては盤面の升目が9×9の81升あるので、81歳を「盤寿」と呼んでお祝いをいたします。通常は数えでカウントされるので、小林先生も「盤寿」を迎えたことになります。

最近是多方面で活躍中の棋士の加藤一二三先生も、今年「盤寿」を迎えられて、ますます、元気に活動をされています。小林先生もちろんそうですが、その精力的な活動の源はどこから来ているのか、いつも不思議に、そして興味深く思っています。

初めてお会いしたマエストロ

先生に初めてお会いしたのは今から30年前の1990年、10月

—ブルックナーの交響曲は金太郎飴ではない。

なんと面白いことを言う人だろう、と思った。

20世紀後半の日本では、ブルックナーの人气が急激にあがった。ここでは、ブルックナーにふさわしい指揮者だとかそうでないとか、ハース版かノヴァーク版か改訂版かとか、あるいは何年の稿がいいとか、そういうことにこだわる聴きかたが、少なくなかった。そこに、ブルックナーは曲によってスタイルが違うんだ、それを音で聴かせてやるぞ、と言い出した指揮者があらわれたのだ。

コロンプスの卵のごとく

実際、その数か月後に発売された第2弾の第0番と第1番、第3弾の第2番では室内管弦楽団を起用して、まさしく度肝を抜いてくれたのだった。ブルックナーといえば重厚壮大、精神主義の殿堂みたいな演奏がほとんどだったところに、清新爽快、軽やかに弾んでいく演奏が出てきたのだから、驚いた。

しかし、ブルックナーの交響曲の創作時期は、19世紀末に向けての30年間にわたっている。オーケストラの楽器も規模も書法も、発展と拡大の変化のさなかにあった時期だ。二管編成で書かれた初期交響曲を室内管弦楽団が演奏しても、何の不思議もない。何の不思議もないのだが、ほとんど気がつかれていなかったことを、ヴェンツァーゴはやってのけたのだった。コロンプスの卵のようだった。

この冒険は、最後に録音した第5番にまで室内管弦楽団を起用したことで、頂点を迎えた。それは、2017年にゲンナジー・ロジェストヴェンスキーが読響を指揮して聴かせてくれた同じ曲（最近CDになった）の、いわゆる「シャルク改訂版」の恐竜的な巨大さとは対極にあって、そして、この曲に潜む二面性（室内乐的精密さと怪物的迫力）を、それぞれに示してくれたものだった。

各曲の演奏について触れるとキリがないのだが、残念ながら紙数が尽きたので、今回の《定期》で演奏される第3番について最後に触れる。

録音では通常の交響楽団を起用して、響きの見通しのよさという基本的な魅力は変えないまま、よりオーケストラに厚み（それも綿のような、やわらかな厚み）を加えていた。

それが実演では、読響では、どのように響くか。とても楽しみである。

〈やまざき こうたろう・音楽史譚家〉

の成田空港においてでした。自分にとっては二十歳で初めて迎える防衛戦の初戦がドイツのフランクフルトで行われる時の移動で、先生も海外への移動のタイミングで、偶然、小林先生と対局の立会人を務める大内延介先生（九段）がバツリお会いして（お二人は以前から交流がある）、その時に御挨拶をさせていただきました。私にとっては初めてお会いする本物のマエストロで、緊張したと同時に別世界に足を踏み入れた気持ちになりました。

小林先生が将棋四段の実力者であり、プロとは飛車落ち（県代表クラス）で対戦する程の愛好家であることは存じていました。その後、なかなかお目にかかる機会がなかったのですが、2005年に日本経済新聞社の企画で対談をさせていただき幸運に恵まれました。

幼少期の音楽との出会い、月夜に楽譜を眺め作曲家を目指し、それから指揮者の道を進まれて行く過程でいつも温厚でにこやかな先生の絶えない献身と道のりを聞いて、身が引き締まる思いを持ちました。

その後はコンサートに伺ったり、将棋の就位式にお招きをさせていただいております。以前、その席で祝辞をお願いしたことがあったのですが、先生はサプライズでピアノも演奏して下さり、さらに歌まで歌っていただきました。その場に参加した人々は自分も含めて千載一遇の幸運に恵まれたと思っています。

古希のお祝いのころ

丁度、今から10年前、小林先生の古希のお祝いに参加をした時に、いかに先生が周囲の方々から尊敬され、慕われているかを目の当たりにしました。それは小林先生から発せられる作曲家やオーケストラの方々、関係者や観客の人々への「敬意」の表れだと思っています。

棋士の世界においては60代の後半から70代になると体力的な面もあり、早指しになるのが一般的です。枯淡の境地とし

て自然に流れるようなスタイルを確立します。しかし、小林先生は「炎のマエストロ」との名称があるように、いつも情熱的で高いテンションで舞台に立たれています。子供の頃であればそれに憧れて目標にと思ったかもしれませんが、偉大過ぎて自分にはとても無理と感じさせる畏怖の存在でもあります。

祈りのマエストロ

また、今までコンサートの舞台で高く、遠くを見上げて何かと対話をしているような姿を何度も拝見しました。どんなに沢山の人が見ていたとしても、小林先生しか見ていない風景がきっとあるのだらうと想像をしています。そして、その姿が音楽に深い祈りを捧げているようで、私にとっての小林先生は「祈りのマエストロ」でもあります。

いつまでもお元気にその姿を拝見したいと思っていますが、少し心配をしていることもあります。

以前、遠征先のホテルの廊下で偶然、先生とすれ違ったことがありました。その時にあまりに憔悴しょうすいされていたので衝撃を受けました。しかし、その直後にコンサートに伺ったらいつも以上にお元気な姿でホッとしました。驚異的な回復力をマエストロが持っているのは間違いないですが、関係者の皆様、どうぞマエストロをあまり酷使しないようにお願いをいたします。（笑）

江戸時代の浮世絵師、葛飾北斎は80歳以降も数多くの作品を残されました。先生におかれましても今後も歴史に残るような道のりを示されることを願っています。

〈はぶ よしはる・将棋棋士〉



5月の公演

新時代の旗手・鈴木優人が振るベリオ&シューベルト



5/13 水 第598回 定期演奏会
サントリーホール 19:00

指揮＝**鈴木優人** (指揮者/クリエイティブ・パートナー)

トランペット＝**マティアス・ヘフス**

シューベルト：交響曲 第4番〈悲劇的〉

ペーメ：トランペット協奏曲

ベリオ：レンダリング～シューベルトの未完の断片を用いて～

イギリスの新鋭グラスバークが描くシベリウスの雄大な世界



5/19 火 第632回 名曲シリーズ
サントリーホール 19:00

指揮＝**ベン・グラスバーク**

ピアノ＝**ペーター・レーゼル**

フンパーディンク：歌劇〈ヘンゼルとグレーテル〉序曲

ベートーヴェン：ピアノ協奏曲 第1番

シベリウス：交響曲 第2番

“ハーブの貴公子”メストレが共演！ 優雅なひとときへ誘う週末の午後



5/23 土 第227回 土曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール 14:00

5/24 日 第227回 日曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール 14:00

指揮＝**ベン・グラスバーク**

ハーブ＝**グザヴィエ・ドゥ・メストレ**

モーツァルト：歌劇〈ドン・ジョヴァンニ〉序曲

ボワエルデュ：ハーブ協奏曲

モーツァルト：交響曲 第31番〈パリ〉

ラヴェル：ボレロ

5月公演の聴きどころ

5/13《定期》 今シーズンから読響の指揮者/クリエイティブ・パートナーに就任した鈴木優人が《定期》に初登場。シューベルトの交響曲第4番〈悲劇的〉と、シューベルトの未完のスケッチを基にイタリアの現代作曲家ベリオが作曲・編集した〈レンダリング〉を指揮する。〈レンダリング〉は鈴木がオランダ留学時代に聴いて衝撃を受けた曲とのことで、「シューベルトとベリオ二人の響きが交錯する非常に特殊な作品。挑戦的なプログラムです」と語る。また、世界最高峰のトランペット奏者ヘフスが、ペーメの協奏曲を輝かしく豊かな音色で奏でるだろう。

5/19《名曲》 2017年に23歳でブザンソン国際指揮者コンクールに優勝し、ザルツブルク音楽祭、グラインドボーン音楽祭などで活躍するイギリスの指揮者グラスバークが読響に初登場し、シベリウスの交響曲第2番を振る。シベリウス作品の中でも親しみやすく最も人気の高いこの曲で、北欧フィンランドの雄大な自然を思わせる世界を作り上げる。また、革新的な試みが随所に見られ、明るく軽やかなベートーヴェンのピアノ協奏曲第1番では、ドイツの巨匠レーゼルが深みの増した境地を聴かせる。レーゼルは今回をもって日本での演奏活動に終止符を打つことを表明しており、必聴だ。

5/23、24《土日マチネー》 リヨン国立管やベルギー王立モネ劇場などで活躍するグラスバークが、フランスにちなんだプログラムをお送りする。協奏曲では、ウィーン・フィルなどと共演する“ハーブの貴公子”メストレが約3年ぶりに登場。19世紀前半にフランス・オペラ界の重鎮作曲家として活動したボワエルデュのハーブ協奏曲で、優雅なひと時を味わえるだろう。後半は、モーツァルトがパリの演奏団体から依頼を受けて作曲した交響曲第31番〈パリ〉とラヴェルの〈ボレロ〉を取り上げる。〈ボレロ〉は同じリズムと旋律を何度も繰り返しながら音の厚みが増していき、興奮のクライマックスを迎える。

(文責：事務局)

お申し込み・お問い合わせ

読響チケットセンター 0570-00-4390 (10時～18時・年中無休) <https://yomikyo.or.jp/>

桂冠指揮者カンブルランが鮮烈に響かせるヴァレーズの巨大作



6/9 火 第599回 定期演奏会
サントリーホール 19:00

指揮＝シルヴァン・カンブルラン (桂冠指揮者)

ドビュッシー：遊戯

細川俊夫：冥想 — 3月11日の津波の犠牲者に捧げる —

ドビュッシー：イペリア (管弦楽のための〈映像〉から)

ヴァレーズ：アルカナ

“色彩の魔術師”が振る〈ロミオとジュリエット〉&〈ダフニスとクロエ〉



6/13 土 第228回 土曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール 14:00

6/14 日 第228回 日曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール 14:00

指揮＝シルヴァン・カンブルラン (桂冠指揮者)

ピアノ＝マリyam・バタシヴィリ

チャイコフスキー：ピアノ協奏曲 第1番

プロコフィエフ：バレエ音楽〈ロミオとジュリエット〉から

ラヴェル：バレエ音楽〈ダフニスとクロエ〉 第2組曲

輝かしいフィナーレ！ カンブルランが鮮やかに描く〈展覧会の絵〉



6/19 金 第633回 名曲シリーズ
サントリーホール 19:00

6/21 日 第120回 みなとみらいホリデー名曲シリーズ
横浜みなとみらいホール 14:00

6/22 月 第26回 大阪定期演奏会
フェスティバルホール (大阪) 19:00

指揮＝シルヴァン・カンブルラン (桂冠指揮者)

ヴァイオリン＝三浦文彰

メシアン：キリストの昇天

コルンゴルト：ヴァイオリン協奏曲

ムソルグスキー (ラヴェル編)：組曲〈展覧会の絵〉

欧州で躍進するビールマイヤーが日本デビュー&カリスマ反田が共演



7/4 土 第229回 土曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール 14:00

7/5 日 第229回 日曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール 14:00

指揮＝アニア・ビールマイヤー

ピアノ＝反田恭平

リリ・プーランジェ：春の朝に

チャイコフスキー：ピアノ協奏曲 第2番

チャイコフスキー：交響曲 第5番

名匠ヴァイグレが豪華歌手陣と繰り広げるワーグナー・プログラム



7/14 火 第600回 定期演奏会
サントリーホール 19:00

7/16 木 第634回 名曲シリーズ
サントリーホール 19:00

指揮＝セバスティアン・ヴァイグレ (常任指揮者)

ジークリンデ＝ジェニファー・ホロウェイ (ソプラノ)

ジークムント＝ペーター・ザイフェルト (テノール)

フンディング＝ファルク・シュトルックマン (バス)

ワーグナー：歌劇〈リエンツィ〉序曲

ワーグナー：ジークフリート牧歌

ワーグナー：楽劇〈ワルキューレ〉第1幕 (演奏会形式)

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

インターネットで24時間いつでもお申し込みができ、ご自身で好みの座席をお選びいただけます。上記URLもしくはホームページのトップページ【読響チケットWEB】のボタンから、ぜひご利用ください。

※初回お申し込み時は利用登録(無料)が必要です。

■TACT FESTIVAL2020

東京芸術劇場 presents 鈴木優人&読響ファミリーコンサート

5/5 15:00
火・祝 東京芸術劇場コンサートホール

指揮・お話＝鈴木優人（読響指揮者／クリエイティブ・パートナー）

司会・歌＝石丸幹二

メンデルスゾーン：劇音楽〈夏の夜の夢〉から“結婚行進曲”

ウェーベルン：〈管弦楽のための5つの小品〉から“第1楽章”

エルガー：行進曲〈威風堂々〉第1番 ほか

【料金】一般 ¥3,500 こども ¥1,000 (4歳以上、高校生以下)

【お問い合わせ】東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296 (10～19時/休館日を除く)

■コンポージアム2020 トーマス・アデスの音楽

5/28 19:00
木 東京オペラシティ コンサートホール

指揮＝トーマス・アデス

ヴァイオリン＝リーラ・ジョセフォウィッツ

トーマス・アデス：アサイラ

ヴァイオリン協奏曲〈同心軌道〉

ボラリス（北極星）[日本初演]

【料金】一般 ¥3,000 学生 ¥1,000

【お問い合わせ】東京オペラシティチケットセンター 03-5353-9999 (10～18時/月曜定休)

■アプリコ公演

鈴木優人×小山実稚恵《心震わすロシア音楽》

5/31 15:00
日 大田区民ホール・アプリコ 大ホール

指揮＝鈴木優人（読響指揮者／クリエイティブ・パートナー）

ピアノ＝小山実稚恵

ラフマニノフ：ピアノ協奏曲 第2番

チャイコフスキー：交響曲 第4番

【料金】一般 ¥4,500 25歳以下 ¥2,000

オンライン価格 一般 ¥4,270 25歳以下 ¥1,900

【お問い合わせ】大田区文化振興協会チケット専用電話 03-3750-1555 (10～20時)

鈴木優人が指揮者／クリエイティブ・パートナーに就任

読響は、2020年4月1日付で「指揮者／クリエイティブ・パートナー」に鈴木優人氏を迎えました。任期は2023年3月末までの3年間です。

鈴木氏は、現在バッハ・コレギウム・ジャパン (BCJ) の首席指揮者、調布国際音楽祭のエグゼクティブ・プロデューサーを務めるほか、鍵盤楽器奏者、作・編曲家としても活躍するなど多岐にわたり活動する新世代のホープです。指揮者としての演奏はもちろん、教育プログラムなどではプロデューサーとして関わっていただき、クラシック音楽の魅力をより多くのお客様に伝えてまいります。



鈴木優人 ©読響

鈴木氏からのメッセージ

今回、新しいポストに就任し、わくわくしています。読響とはこれまで、C.P.E. バッハからライヒまで幅広いレパートリーと一緒にやってきて、常にフレキシブルで協力的な印象を持っています。これからはさらに挑戦的なプログラムや、新しいアイデアを提案して取り組みたいです。また、シリーズ公演でも若年層のファンを増やして巻き込んでいくことを考えていきたいと思っています。

TACT FESTIVAL2020に鈴木優人&読響が出演



石丸幹二 ©山中健治

読響と事業提携している東京芸術劇場が主催するTACT FESTIVAL2020に、鈴木優人&読響が出演します(2020年5月5日[火・祝] 15時開演)。今年のテーマは音楽には欠かせない“ハーモニー”。『題名のない音楽会』の司会として知られる俳優・歌手の石丸幹二を迎え、オーケストラの演奏と楽しいトークで子どもから大人まで一緒に楽しめるファミリーコンサートをお送りします。

J.ウィリアムズ作曲の映画『スター・ウォーズ』“メイン・タイトル”を皮切りに、石丸の歌で映画『サウンド・オブ・ミュージック』から“エーデルワイス”、ワーグナー〈トリスタンとイゾルデ〉“前奏曲”、ミュライユ『Reflections／Reflets』から“I - Spleen”など、一度は生演奏で聴いてみたい曲や、この機会を逃したら一生聴かないであろう珍しい曲を取り上げます。詳細は30ページをご覧ください。皆様のご来場をお待ちしています。

チケット発売情報

●2020年7月～9月シリーズ公演1回券

《定期》《名曲》《土曜マチネー》《日曜マチネー》《みなとみらいホリデー名曲》の2020年7月～9月の1回券を、**4月4日(土)**から会員優先、**4月11日(土)**から一般発売します。



ヴァイグレ 鈴木優人 尾高忠明 反田恭平 ヴィニツカヤ フィリッペン

常任指揮者のヴァイグレは7月に登場し、楽劇〈ワルキューレ〉第1幕(演奏会形式)など得意のワーグナー作品でオペラ指揮者としての手腕を発揮。ジークムント役のザイフェルトをはじめ豪華歌手陣が繰り広げる、世界最高峰の歌唱をご堪能ください。9月は指揮者/クリエイティブ・パートナーの鈴木優人が、ベートーヴェン・プログラムを披露。名誉客演指揮者の尾高忠明は、定評のあるイギリス音楽からウォルトンの交響曲第1番で壮大な世界を築きます。

また、躍進中のドイツの女性指揮者ピールマイアー、ウズベキスタン出身の気鋭・ショハキモフが客演。ソリストは、スケールの大きな音楽で人気の反田恭平、ベルリン・フィルとも共演する実力派ヴィニツカヤ、オランダの名花フィリッペン、日本を代表するチェリストの宮田大、ドイツの名手マンツが共演します。

●サマーフェス《三大交響曲》《三大協奏曲》1回券

8月に開催するサマーフェスティバル《三大交響曲》と《三大協奏曲》(会場：サントリーホール)のチケットを、**5月17日(日)**から会員優先、**5月31日(日)**から一般発売します。8月19日(水)《三大交響曲》では、次世代を担うホープ角田鋼亮が、〈未完成〉〈運命〉〈新世界〉を一挙に指揮します。22日(土)《三大協奏曲》では、2001年生まれの新星ヴァイオリニスト戸澤采紀、欧州で注目を浴びるチェリストのカミーユ・トマ、世界各地のオーケストラと共演するロシアのピアニスト、アルセニ・タラセヴィチニコフが共演します。指揮は新鋭・太田弦。詳しくは読響HP、チラシなどをご覧ください。

※発売日については現在調整中

お申し込み・お問い合わせ

読響チケットセンター 0570-00-4390 (10時～18時・年中無休) <https://yomikyo.or.jp/>

2020年度読響会員特典CDのご案内

2020年度読響会員の方には、4月から読響主催公演の会場で、2020年度読響会員特典CD(非売品)の引き換えを行います。特典CDは以下の2種類からお選びいただけます。

●CD1 《ヴァイグレの英雄》

- ・セバスティアン・ヴァイグレ(常任指揮者)
ベートーヴェン：交響曲第3番〈英雄〉

[ライブ録音：2019年5月24日、サントリーホール]

●CD2 《読響指揮者陣3人による名曲選》

- ・セバスティアン・ヴァイグレ(常任指揮者)
ワーグナー：楽劇〈ニュルンベルクのマイスタージンガー〉第1幕への前奏曲
モーツァルト：歌劇〈魔笛〉序曲
- ・鈴木優人(指揮者/クリエイティブ・パートナー)
ラモー(鈴木優人編)：歌劇〈優雅なインドの国々〉組曲
- ・山田和樹(首席客演指揮者)
伊福部昭：SF交響ファンタジー第1番

[ライブ録音：2019年5月26日、横浜みなとみらいホール ほか]

入団のお知らせ



金子亜未(首席オーボエ奏者)

金子亜未(首席オーボエ奏者)が2月1日付で入団しました。

オーディションのお知らせ

[募集パート] トランペット奏者(2・4番〈3番〉) 1名

[日程] 一次審査：2020年7月7日(火) 一次審査予備日：2020年7月6日(月)

二次審査：2020年7月8日(水)

[会場] 読売日本交響楽団練習所(神奈川県川崎市麻生区)

[詳細・お問い合わせ] 事務局オーディション担当 Tel. 03-5283-5215(平日10～17時)

0テレ 読響シンフォニックライブ

月1回放送 [BS日テレにて地上波放送の翌週土曜日再放送]

4月16日(木)

午前2:29~3:29 (水曜深夜) 放送予定

[再放送] BS日テレ 4月25日(土)

朝7:00~8:00放送予定

指揮=大友直人

ドヴォルザーク:交響曲 第8番 ほか



大友直人 ©Rowland Kirishima

近著『クラシックへの挑戦状』が話題騒然、大友直人の「ドボ8」。ボヘミアの田園を想わせる明るい曲想とハーモニー、そして圧巻のコーダ！ 気鋭のマエストロ、渾身のタクトにご期待ください。

放送内容は変更の可能性がありますのでご了承ください

<http://www.ntv.co.jp/yomikyo/>

「読響シンフォニックライブ」ホームページ

番組情報・公開録画のお知らせもコチラから

読響の演奏動画はhuluで配信中！

シェーンベルク:グレの歌 指揮=シルヴァン・カンブルラン 全曲配信

ベートーヴェン:交響曲第9番〈合唱付き〉 指揮=マッシモ・ザネッティ

*ほかにも読響の熱演を順次ノーカットで配信予定！

5月21日(木)

午前2:29~3:29 (水曜深夜) 放送予定

[再放送] BS日テレ 5月30日(土)

朝7:00~8:00放送予定

指揮=小林研一郎

ブラームス:交響曲 第2番 ほか



小林研一郎 ©読響

読響特別客演指揮者、小林研一郎が聴かせるブラームスの交響曲第2番。名作揃いのブラームスの交響曲の中でも、特に歓びと情感にあふれた作品を、コパケンの情熱のタクトでお楽しみください。

Column

プロデューサー日記

プラハ！ カンタービレ！！

尼崎 昇 日本テレビ「読響シンフォニックライブ」プロデューサー

4月の放送はドヴォルザーク交響曲第8番をお送りします。アメリカで書かれたその名も〈新世界から〉の1つ前に、祖国チェコで完成。明るい太陽に照らされたボヘミアの田園を想わせる、幸福感に満ち溢れた名曲です。

一昨年2月、BS日テレの番組でチェコの首都・プラハを撮影する仕事が私に舞い込みました。コーディネーター氏の本拠地ベルリンから車でアウトバーンを南下。国境ではコンビニで両替とトイレ休憩をただけで検問もパスポート提示もなく、東西冷戦を知る我々の世代には隔世の感の“東側入国”となりました。

出発から約3時間半でプラハ到着。真っ先に目に飛び込んだのは同郷の大作作曲家、スメタナの〈我が祖国〉に描かれたヴルタヴァ（モルダウ）川の雄大な流れ、そして“黄金の都”と称される美しい街並み。他局のドラマで恐縮ですが『のだめカンタービレ』の欧州編もこの地で撮影されたとのこと。のだめと千秋先輩が師匠の演奏会に駆け付けたルドルフィヌム、千秋がコンクール決勝を振り、のだめがシヨパンを弾いたスメタナホール、二人が歩いたプラハ城の階段……美景に名シーンが重なります。実はコーディネーター氏は『のだめ〜』の仕事も請け負ったとのこと。彼曰く、なぜプラハのシーンが多かったか？ それは物価が安くてパリの3分の1ほどで済むから。大勢のスタッフ、キャストでホテル代も食費も馬鹿になりません。プラハ市民も喜んでエキストラに参加してくれたそうです。同業他社ながらプロデューサーの金銭感覚にも敬意を表した旅でした。



ドヴォルザークホールのあるルドルフィヌム（チェコ・プラハ）

さて、日テレの放送に話は戻りますが、指揮は大友直人さん。今年1月に上梓された『クラシックへの挑戦状』（中央公論新社）が話題となっていますが、本番前のインタビューで熱い思いを語り、カメラが止まった後も2時間余、お話は止まりませんでした。さらに、番組では私自身が前述の口ケで撮影したプラハの美景もふんだんに挿入されます。ぜひご期待くださいませ。

読売日本交響楽団 ご支援のお願い

読売日本交響楽団では、皆様方から広くご支援・ご声援をいただけるよう、個人賛助会員システムがございます。

日本を代表するオーケストラとしてさらに飛躍し、社会的な使命を果たすには、より多くの皆様からのご支援が必要です。読響が奏でる音楽によって心豊かな社会を共に作っていくために、ぜひとも賛助会員としてお力添えをお願い申し上げます。

■ 個人賛助会員 期間：ご入会月から1年間

	1口1万円	1口30万円
定期演奏会ご案内	—	○
主催公演 優先予約 ※1	○	○
主催公演チケット 優待販売 ※1	○	○
公開リハーサル ※2	○	○
読響シンフォニックライブ公開録画 入場引換券 ※3	○	○
プログラム誌・HP 芳名記載	○	○

※1 対象外の公演もございます。

※2 年間2回を予定しております。1口1万円につき、1名様のご案内となります。

※3 席数限定でのご用意となり、応募者多数の場合は抽選となります。

■ 法人賛助会員

1口30万円 期間：ご入会月から1年間

〈税制上の優遇措置について〉

読売日本交響楽団は内閣府より「公益財団法人」の認定を受けており、当楽団へのご寄付には税制上の優遇措置がございます。詳細は賛助会員担当にお尋ねください。

賛助会員 お問い合わせ・お申し込み

公益財団法人読売日本交響楽団 賛助会員担当

TEL: 03-5283-5215 (平日 10:00~17:00)

E-mail: support@yomikyo.or.jp

賛助会員名簿 (敬称略、五十音順)

いつもあたたかいご支援を賜り、ありがとうございます。

〈法人賛助会員〉

(2020年3月現在)

アサヒグループホールディングス(株)	びあ(株)
イオン(株)	(株)BS日本
伊東国際特許事務所	非破壊検査(株)
HJホールディングス(株)	(株)フォアキャスト・コミュニケーションズ
NTTコミュニケーションズ(株)	文化シャッター(株)
小田急電鉄(株)	(株)ベスト・ワン保険
キャノン(株)	(株)報知新聞社
(株)弘電社	松田運送(株)
(株)CS日本	丸一商店(株)
(株)シミズオクト	(株)みずほ銀行
清水建設(株)	(株)三井住友銀行
新菱冷熱工業(株)	(株)三菱地所設計
(株)スピンドル	(株)目の眼
(株)精養軒	望月印刷(株)
大成建設(株)	森平舞台機構(株)
(株)竹尾	安田不動産(株)
(株)中央公論新社	(株)大和通信社
(株)ティップネス	ユニデンホールディングス(株)
(株)電通	(株)読売IS
(株)東急ホテルズ	(株)読売エージェンシー
(株)東京ドーム	(株)読売巨人軍
凸版印刷(株)	(株)読売広告社
ニッセイ保険エージェンシー(株)	(株)読売システック
(株)日テレ アックスオン	読売不動産(株)
日本コンピューターサイエンス(株)	(株)読売プラス
日本テレビ音楽(株)	(株)よみうりランド
(株)ネロ楽器	(株)読売旅行
蜂屋(株)	ローム(株)

ほか2社

〈個人賛助会員〉

鈴木 勝康
K・K
H・S
K・T
ほか1名

六原 謙
雨宮 靖和
荒井 顕祈
石坂 廬
石田 米和
稲富 武二
井上 直人
井上 洋美
猪木 武徳
今西 至
岩瀬 順子
臼井 年胤
宇田川 昌子
大木 茂男
大塚 啓一
大塚 具幸
大湯 淳功
岡本 耕治
荻野 郁代
小倉 嘉五郎
小野 悦男

香取 嘉信
金子 圭一
上村 昌彰
木下 盛弘
木村 幸男
草間 和幸
熊坂 久雄
好士崎 稔子
鴻巣 俊之
後上 友美
小納谷 秀秋
小林 京子
小林 敬和
小林 宏慈
小林 佳子
齋藤 将隆
齋藤 正博
柴田 栄一
末松 直也
高倉 淳
高仲 裕樹
高橋 光子
高山 幸子
竹内 牧
谷口 豊
谷山 信
坪井 和音

戸田 晴久
富永 英義
鳥越 久里
仲井 淳一
中山 精一
新倉 啓介
西澤 豊
根本 直之
濱尾 仁
濱田 正己
林 路郎
福本 邦彦
藤澤 光昭
藤島 秀憲
船田 喜久子
堀 哲也
松尾 十作
松島 常
松田 彩
松田 政信
松野 良子
圓尾 雅則
溝部 信夫
宮本 嗣巳
目黒 義信
矢向 真
安富 康男

(2020年3月現在)

安村 真寿美
山際 茂雄
山越 章弘
吉田 幸三
竜 夏美
若田部 矩弘
脇 映夫
渡辺 敦郎
誠司・真実子
A. H
A. K
K. I
K. S
K. Y
M. M
M. M
M. N
M. O
T. N
T. O
T. Y
Y. N
Micky
nakaga8
Ryu. S
YAMASUGA

ほか29名

賛助会員（個人）の税制上優遇措置について

読響へのご寄付は、確定申告を行っていただくことで税制上の優遇措置を受けることができます。2019年10月25日以降のご寄付は、従来の「所得控除」の他に「税額控除」を選択できるようになりました。

また、都道府県・市区町村によっては、個人住民税控除の対象となる場合があります。

大切な楽器の輸送は、松田におまかせください。

プロの実績

交響楽団の楽器を輸送して50余年の実績。

国宝級の美術品輸送も経験豊富です。

プロの技

空調完備の専用車をご用意。

デリケートなピアノ・楽器・美術品を万全な体制でお届けいたします。

美しい音色を届ける、
タクトを振りたい。



物流のコンダクター

松田運送株式会社 本社 〒105-0004 東京都港区新橋6丁目4番8号 ☎ 03-3432-1911

Conductor

指揮者陣



常任指揮者
セバスティアン・ヴァイグレ
Sebastian Weigle



首席客演指揮者
山田 和樹
Kazuki Yamada



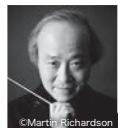
指揮者/クリエイティブ・パートナー
鈴木 優人
Masato Suzuki



桂冠指揮者
シルヴァン・カンブルラン
Sylvain Cambreling



名誉指揮者
ユリ・テミルカーノフ
Yuri Temirkanov



名誉客演指揮者
尾高 忠明
Tadaaki Otaka



特別客演指揮者
小林 研一郎
Ken-ichiro Kobayashi

Honorary Advisor

名誉顧問



高円宮妃久子殿下
Her Imperial Highness
Princess Takamado

Cocertmaster コンサートマスター



コンサートマスター
小森谷 巧
Takumi Komoriya



コンサートマスター
長原幸太
Kota Nagahara



特別客演コンサートマスター
日下紗矢子
Sayako Kusaka

Violin

ヴァイオリン



瀧村依里(首席)
Eri Takimura



赤池瑞枝
Mizue Akaie



荒川以津美
Izumi Arakawa



伊東真奈
Mana Ito



井上雅美
Masami Inoue



太田博子
Hiroko Ota



小田 透
Toru Oda



鎌田成光
Narumi Kamata



川口亮史
Takashi Kawaguchi



久保木隆文
Takafumi Kuboki



小杉芳之
Yoshiyuki Kosugi



島田玲奈
Reina Shimada



杉本真弓
Mayumi Sugimoto



薄田 真
Makoto Susukida



高木敏行
Toshiyuki Takagi



武田桃子
Momoko Takeda



對馬哲男
Tetsuo Tsushima



寺井 馨
Kaori Terai



肥田与幸
Tomoyuki Hida



外園彩香(首席代行)
Ayaka Hokazono



宮内 晃
Akira Miyauchi



森川 徹
Toru Morikawa



山田耕司
Koji Yamada



山田友子
Yuko Yamada

Viola

ヴィオラ



ソロ・ヴィオラ
鈴木康浩
Yasuhiro Suzuki



ソロ・ヴィオラ
柳瀬省太
Shota Yanase



榎戸崇浩
Takahiro Enokido



小山貴之
Takashi Koyama



正田響子
Kyoko Shoda



富田大輔
Daisuke Tomita



長岡晶子
Akiko Nagaoka



長倉 寛
Hiroshi Nagakura



二宮隆行
Takayuki Ninomiya



三浦克之
Katsuyuki Miura



森口恭子
Kyoko Moriguchi



渡邊千春
Chiharu Watanabe

Cello

チェロ



ソロ・チェロ
遠藤真理
Mari Endo



富岡廉太郎(首席)
Rentaro Tomioka



唐沢安岐奈
Akina Karasawa



木村隆哉
Takaya Kimura



芝村 崇
Takashi Shibamura



高木慶太
Keita Takagi



林 一公
Kazumasa Hayashi



松葉春樹
Haruki Matsuba



室野良史
Yoshifumi Muroto



渡部玄一
Genichi Watanabe



ソロ・コントラバス
石川 滋
Shigeru Ishikawa



大槻 健(首席)
Ken Otsuki



石川浩之
Hiroyuki Ishikawa



小金丸章斗
Akito Koganemaru



ジョナサン・ステファニアク
Jonathan Stefaniak



瀬 泰幸
Yasuyuki Se



高山健児
Kenji Takayama



樋口 誠
Makoto Higuchi

Double Bass

コントラバス



倉田 優(首席)
Yu Kurata



フリスト・ドブリノフ(首席)
Hristo Dobrinov



片爪大輔
Daisuke Katazume

Flute

フルート

Oboe

オーボエ



蠣崎耕三(首席)
Koushou Kakizaki



金子亜未(首席)
Ami Kaneko



浦 丈彦
Takehiko Ura



北村貴子
Takako Kitamura

Clarinet

クラリネット



金子 平(首席)
Taira Kaneko



藤井洋子(首席)
Youko Fujii



鎌田浩志
Hiroshi Kamata



芳賀史徳
Fuminori Haga

Bassoon

ファゴット



井上俊次(首席)
Toshitsugu Inoue



吉田 将(首席)
Masaru Yoshida



岩佐雅美
Masami Iwasa



武井俊樹
Toshiki Takei

Horn

ホルン



日橋辰朗(首席)
Tatsuo Nippashi



松坂 隼(首席)
Shun Matsuzaka



上里友二
Yuji Uezato



伴野涼介
Ryoosuke Tomono



久永重明
Shigeaki Hisanaga



矢野健太
Kenta Yano



山岸リオ
Rio Yamagishi

Trumpet

トランペット



辻本憲一(首席)
Kenichi Tsujimoto



長谷川潤(首席)
Jun Hasegawa



田中敏雄
Toshio Tanaka



尹 千浩
Cheonho Yoon

Trombone

トロンボーン



青木 昂(首席)
Koh Aoki



桑田 晃(首席)
Akira Kuwata



葛西修平
Shuhei Kasai



篠崎卓美
Takumi Shinozaki

Tuba

チューバ



次田心平
Shimpei Tsugita

Timpani

ティンパニ



岡田全弘(首席)
Masahiro Okada



武藤厚志(首席)
Atsushi Muto

Percussion

打楽器



西久保友広
Tomohiro Nishikubo



野本洋介
Yosuke Nomoto

エルダー楽員



田島 勤
Tsutomu Tajima



舘市正克
Masakatsu Tateichi



田村博文
Hirofumi Tamura



福田高明
Takaaki Fukuda



望月寿正
Toshimasa Mochizuki

©読響(特記以外)

契約団員：小形 響(ヴァイオリン、3月1日現在)、佐藤友美(フルート)

岸本萌乃加(次席第1ヴァイオリン、4月11日～)、

金子泰士(打楽器、4月11日～)

役員	理事長	古本 朗				
	常任理事	津村 浩	石澤 顕			
	理事	一本 哉	梅田尚哉	大石久和	亀山郁夫	小石川伸哉
		酒巻和也	齋藤 理	武野一起	福地茂雄	前木理一郎
		山口多賀司				
監事 評議員	監事	廣瀬健一	村岡彰敏			
		池辺晋一郎	江利川毅	老川祥一	大久保好男	大橋善光
	評議員	岡村 正	川畑年弘	小杉善信	相良朋紀	佐藤 謙
		但木敬一	玉井忠幸	伝川 幹	堤 剛	中村政雄
		原 孝文	肥田美代子	福川伸次	マリ クリスティーヌ	山口寿一
		渡邊恒雄				

事務局	事務局長	津村 浩				
	事務局次長(統括)	安達幸一				
	事務局次長	正岡美樹				
	経理担当(部長級) 田口博善					
	事業課	副課長	大久保広晴			
		伊藤香代	根本峰男	平井牧子	松岡 豊	田嶋美由紀
		佐藤友信				
制作課	課長	法木宏和				
		部坂祐貴乃	角田修平			
演奏課	課長	深川 弦				
		藤原 真	新谷琢人	小倉康平	武田若水	
総務課	課長	深川 弦(兼務)				
		杉山雄介	倉持徹也	菅原美和	山本響子	加藤智子
		山本明美				



読売日本交響楽団 プロフィール

読売日本交響楽団は1962年、クラシック音楽の振興と普及のために読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビのグループ3社を母体に設立された。スクロヴァチェフスキ、アルブレヒト、カンブルランなど、世界的なアーティストが歴代の常任指揮者を務め、2019年4月にドイツの名匠セバスティアン・ヴァイグレが第10代常任指揮者に就任した。

創立以来、著名な指揮者、ソリストと共演を重ねている。現在、名誉顧問に高円宮妃久子殿下をお迎えし、東京のサントリーホールや事業提携する東京芸術劇場などで充実した内容の演奏会を多数開催している。

2017年11月にはメシアンの歌劇〈アッシジの聖フランチェスコ〉(全曲日本初演)が好評を博し、『音楽の友』誌の「コンサート・ベストテン2017」で第1位となったほか、「第49回(2017年度)サントリー音楽賞」を受賞した。

このほか、社会貢献活動として、公益財団法人「正力厚生会」のがん患者助成事業に協力する「ハートフル・コンサート」や、小中学校での「フレンドシップ・コンサート」などを開催し、音楽文化のすそ野拡大にも地道な努力を続けている。

ホームページ <https://yomikyo.or.jp/>

月刊オーケストラ 4月号 2020年4月1日発行

編集発行人 津村 浩

編集 公益財団法人読売日本交響楽団

編集協力 株式会社中央公論新社

発行所 読売日本交響楽団 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-20 錦町トラッドスクエア6F
Tel. 03-5283-5215 (代) Fax. 03-5283-5222

印刷所 共同印刷株式会社

©2020 読売日本交響楽団 本誌記事の無断掲載を禁じます。